

人類生態学教室年報

2009-2010

Biannual Report of the Department of Human Ecology

2011年6月

東京大学大学院医学系研究科国際保健学専攻

人類生態学教室

Department of Human Ecology, School of International Health,  
Graduate School of Medicine, The University of Tokyo

## 目次 Contents

教育活動 (Educational Activities)		1
学部		
講義	Lectures	
実習	Exercises/Practices	
原書購読	Paper Reading	
大学院		
講義	Lectures and Exercises/Practices	
論文		
卒業論文	Graduation Theses	
修士論文	Master's Theses	
博士論文	Doctoral Dissertations	
研究業績 (Research Activities)		13
原著論文	Original Articles	
単行本	Books and Book Chapters	
総説・資料・他	Reviews, Reports, Essays etc.	
学会発表	Presentations in Scientific Meetings	
受賞	Awards	
競争的資金の獲得 (Research Funds)		24
政府系競争資金	National Research Funds	
文部科学省科学研究費補助金 (代表および分担)		
その他の省庁の科学研究費補助金		
民間財団などの研究助成金	Private Research Funds	
人類生態学研究会 (Meetings on Human Ecology)		27
教室員一覧 (Department Members)		28

## 教育活動 Educational Activities

□学部

■講義

【解剖学】（必修－2年後期 I・II：2単位）

2009年10月－2010年1月 担当：坂井建雄（順天堂大学医学部）

木曜日：10:40-12:10

2009年

10月15日	人体はどのようなものか
10月29日	消化器
11月 5日	呼吸器
11月12日	泌尿器（補講9:00-10:30） 生殖器
11月19日	休講
11月26日	循環系（補講9:00-10:30） 神経系
12月 3日	骨格と筋
12月10日	上肢
12月17日	下肢

2010年

1月14日	頭部
1月21日	個体発生と系統発生
1月28日	人体を知る解剖学

2010年10月－2011年1月 担当：坂井建雄（順天堂大学医学部）

木曜日：10:40-12:10

2010年

10月14日	人体はどのようなものか
10月21日	消化器
10月28日	呼吸器
11月 4日	泌尿器
11月11日	生殖器
11月18日	循環系
11月25日	神経系
12月 2日	骨格と筋
12月 9日	上肢
12月16日	下肢

2011年

1月13日	頭部
1月20日	個体発生と系統発生
1月27日	人体を知る解剖学

**【生理学】**（必修－2年後期Ⅱ：2単位）

2009年11月－2010年1月 担当：佐々木誠一（茨城県立医療大学）

月曜日：13:00-16:10

2009年

11月30日	生理学の基礎，呼吸
12月7日	血液と循環
12月14日	消化と吸収，腎臓の機能

2010年

1月12日	内分泌，生殖
1月18日	神経，シナプスと筋
1月25日	神経系，感覚

2010年11月－2011年1月 担当：佐々木誠一（茨城県立医療大学）

月曜日：13:00-16:10

2010年

11月29日	生理学の基礎，呼吸
12月6日	血液と循環
12月13日	消化と吸収，腎臓の機能

2011年

1月11日	内分泌，生殖
1月17日	神経，シナプスと筋
1月24日	休講
1月31日	神経系，感覚

**【保健と教育】**

2010年12月－2011年1月 担当：渡辺知保，梅崎昌裕，小西祥子

水曜日：13:00-16:10

2010年

12月8日	初回講義
12月15日	グループごとのゼミ （1）現代日本の人口問題について （2）日本における格差と健康について
12月22日	グループごとのゼミ

2011年

1月12日	グループごとのゼミ
1月19日	グループごとのゼミ
1月26日	研究成果発表

**【薬理・毒性学】**（必修－3年前期Ⅰ：2単位）

2009年4月－5月

火曜日：9:00-12:10

2009年

- |       |  |
|-------|--|
| 4月 7日 | 薬理学総論・循環薬理学<br>飯野正光（薬理Ⅰ）   |
| 4月14日 | 中枢薬理学<br>三品昌美（薬理Ⅱ）   |
| 4月21日 | 薬物間相互作用<br>鈴木洋史（薬剤部），伊藤晃成（薬剤部）   |
| 4月28日 | 薬のライフサイクルと調査研究<br>佐藤嗣道（薬剤疫学），久保田潔（薬剤疫学）                                    |
| 5月12日 | 循環器・生活習慣病領域の臨床試験およびゲノム解析について<br>山崎力（臨床疫学システム講座），森田啓行（22世紀医療センター・健康医科学創造講座） |
| 5月19日 | 毒性学概論（1）<br>遠山千春（疾患生命工学センター健康環境医工学部門）                                      |
| 5月26日 | 毒性学概論（2）<br>渡辺知保（人類生態学）  |

2010年4月－5月

火曜日：9:00-12:10

2010年

- |        |   |
|--------|---|
| 4月 6日  | 薬理学総論・循環薬理学<br>飯野正光（薬理Ⅰ）                                |
| 4月13日  | 中枢薬理学<br>三品昌美（薬理Ⅱ）                                      |
| 4月20日  | 薬のライフサイクルと調査研究<br>佐藤嗣道（薬剤疫学），久保田潔（薬剤疫学）                 |
| 4月27日  | 毒性学概論（1）<br>遠山千春（疾患生命工学センター健康環境医工学部門）                   |
| 5月 11日 | 毒性学概論（2）<br>渡辺知保（人類生態学）                                 |
| 5月18日  | 循環器・生活習慣病領域の臨床試験およびゲノム解析について<br>山崎力（臨床疫学システム講座），森田啓行（22 |

5月25日 世紀医療センター・健康医科学創造講座)  
薬物間相互作用  
鈴木洋史 (薬剤部), 伊藤晃成 (薬剤部)

**【人類生態学】** (必修-3年前期Ⅱ : 2単位)

2009年6月-7月 担当 : 渡辺知保, 梅崎昌裕, 清水華, 小西祥子

火曜日 : 9:00-12:10

2009年

6月2日	概論(1) 栄養適応/生理適応・人為的環境と持続可能性
6月9日	概論(2) 行動適応・文化的適応
6月16日	グループワーク (導入)
6月23日	人類生態学の最近の話題(1)
6月30日	人類生態学の最近の話題(2)
7月7日	人類生態学の最近の話題(3)
7月14日	グループワークの発表と全体討論

2010年6月-7月 担当 : 渡辺知保, 梅崎昌裕

火曜日 : 9:00-12:10

2010年

6月1日	人間生態系と適応/都市生態系
6月8日	栄養生態学
6月15日	生態学的にみた疾病と健康
6月22日	行動と活動の把握と生態学
6月29日	再生産/生物学的人口学
7月6日	適応手段としての化学物質
7月13日	持続可能性と人間活動

**【環境保健学】** (選択-3年後期Ⅰ : 2単位)

2009年10月-12月

金曜日 : 9:15-12:10

2009年

10月23日	大気汚染とその健康影響 新田裕史 (国立環境研究所)
10月30日	環境有害化学物質の毒性発現メカニズムと健康リスク評価 大迫誠一郎 (疾患生命工学センター)
11月6日	職場環境における化学物質による中毒とその予防について 吉田 稔 (八戸大学)
11月20日	環境リスクアセスメント/疾病の多様性とヒト

の適応

中澤 港 (群馬大学)

- 11月27日 人と自然の共生からみた地域生態系健康論  
本郷哲郎 (山梨県環境科学研究所)
- 12月 4日 健康にとって“良い”環境とは何か (仮題)  
渡辺知保 (人類生態学)

2010年10月－12月

金曜日：9:00-12:10

2010年

- 10月29日 環境保健学総論  
渡辺知保
- 11月 5日 環境有害化学物質の毒性発現メカニズムと健康  
リスク評価  
大迫誠一郎 (疾患生命工学センター)
- 11月12日 職場環境における化学物質による  
中毒とその予防について  
吉田 稔 (八戸大学)
- 11月19日 人と自然の共生からみた地域生態系健康論  
本郷哲郎 (山梨県環境科学研究所)
- 11月17日 環境リスクアセスメント／疾病適応論：マラリ  
アを題材にして  
中澤 港 (群馬大学)
- 11月26日 大気汚染とその健康影響  
新田裕史 (国立環境研究所)

【人口学】(選択－3年後期Ⅱ：1単位)

2009年12月－2010年2月

月曜日：16:20-17:50

2009年

- 12月 7日 形式人口学 (1) 人口構造の分析  
梅崎昌裕
- 12月14日 形式人口学 (2) 出生の分析  
梅崎昌裕
- 12月21日 数理モデルによる人口分析  
中澤 港 (群馬大学)

2010年

- 1月18日 日本の人口問題  
梅崎昌裕
- 1月25日 途上国の人口問題  
梅崎昌裕

2月1日 アラブ・イスラム社会の出生規範：ヨルダンの事例  
末吉秀二（吉備国際大学）

2010年12月－2011年2月  
月曜日：16:20-17:50  
2010年

11月29日 形式人口学（1）人口構造の分析  
梅崎昌裕  
12月6日 形式人口学（2）出生力の分析  
梅崎昌裕  
12月13日 形式人口学（3）死亡率の分析  
梅崎昌裕  
12月20日 アラブ・イスラム社会の出生規範：ヨルダンの事例  
末吉秀二（吉備国際大学）

2011年

1月17日 数理モデルによる人口分析  
中澤 港（群馬大学）  
1月24日 途上国の人口問題  
梅崎昌裕

**【環境工学・人間工学】**（選択－4年前期Ⅰ：2単位）

2009年4月－5月  
木曜日：9:00-12:10  
2009年

4月9日 都市空間心理工学  
浅見泰司（空間情報科学研究センター）  
4月16日 生物・ヒトの生存戦略と未来環境  
磯山隆（医用生体工学）  
4月23日 土壌・地下水汚染とそのバイオレメディエーション  
栗栖 太（水環境制御研究センター）  
4月30日 Ecological Momentary Assessment の臨床応用  
吉内一浩（診療内科）  
5月14日 ナノテクノロジーが拓く未来医療  
片岡一則（疾患生命工学センター）  
5月28日 環境工学におけるリスク管理  
福士謙介（サステイナビリティ学連携研究機構）

2010年4月－5月

木曜日：9:00-12:10

2010年

- |       |   |
|-------|---|
| 4月 8日 | ナノテクノロジーが拓く未来医療<br>西山伸宏（疾患生命工学センター）                             |
| 4月15日 | 生物・ヒトの生存戦略と未来環境<br>磯山隆（医用生体工学）                                  |
| 4月22日 | 土壌・地下水の汚染と浄化<br>栗栖 太（水環境制御研究センター）                               |
| 5月 6日 | Ecological Momentary Assessment の臨床応用<br>吉内一浩（ストレス防御・心身医学／診療内科） |
| 5月13日 | 環境工学におけるリスク管理<br>福士謙介（サステイナビリティ学連携研究機構）                         |
| 5月20日 | 空間解析と空間心理工学<br>浅見泰司（空間情報科学研究センター）                               |

【医療人類学】（選択－3年前期I-II：2単位）

2010年4月－7月 担当：梅崎昌裕，田所聖志，卯田宗平

金曜日：16:20-17:50

2010年

- |          |                     |
|----------|---------------------|
| 4月23日    | ガイダンス・医療人類学とは何か     |
| 4月30日    | 文化による「病」のとらえ方       |
| 5月 7日    | プラセボ効果：病は気から？       |
| 5月14日    | 狂気は異常か              |
| 5月21日    | 非西洋社会の身体観           |
| 5月28日    | 呪術・民間療法             |
| 6月 4日    | 血の汚れ：ニューギニア高地の健康観   |
| 6月11日    | 人食い（カニバリズム）         |
| 6月18日    | 妊娠・出産               |
| 6月25日    | 国際保健と医療人類学          |
| 7月 2日    | フィールドワーク論           |
| 7月10-11日 | フィールドワーク実習（千葉県白浜周辺） |

■実習

2009年6月

環境保健学実習（選択－4年前期Ⅱ：2単位）

2010年6月

環境保健学実習（選択－4年前期Ⅱ：2単位）

2009年10月

保健学実験・検査法実習：「環境化学」（必修－3年前期Ⅲ：3単位）

2010年10月

保健学実験・検査法実習：「環境化学」（必修－3年前期Ⅲ：3単位）

■原書講読

該当なし

□大学院

■講義

【Human Ecology I (人類生態学特論 I)】

May to June, 2009, Friday 9:30 - 12:00

- |         |  |
|---------|--|
| May 8   | Introduction<br>Ecology of Nutrition / Ecology of Diseases<br>C. Watanabe  |
| May 15  | Special lecture "International Health and Human Ecology"<br>K. Moji (Research Institute for Humanity and Nature) |
| May 29  | Ecology of Nutrition / Ecology of Diseases (continued)<br>Human biology<br>C. Watanabe                           |
| June 5  | Ecological anthropology<br>Demography / Health GIS<br>M. Umezaki   |
| June 12 | Demography/Research design<br>The role of human ecology in International Health<br>M. Umezaki                    |
| June 19 | Sustainability, urbanization and health<br>C. Watanabe   |
| June 26 | Environmental risks<br>C. Watanabe   |

May to July, 2010, Friday 9:30 - 12:00

- |         |  |
|---------|--|
| May 7   | Introduction to Human Ecology<br>C. Watanabe   |
| May 14  | Special lecture "International Health and Human Ecology"<br>K. Moji (Research Institute for Humanity and Nature) |
| May 21  | Biomarkers and health/environmental risks<br>C. Watanabe   |
| May 28  | Cities, urbanization and health<br>C. Watanabe   |
| June 11 | Food survey and nutrition<br>Activity and behavior<br>M. Umezaki   |
| June 18 | GIS use in health sciences<br>Demography survey<br>M. Umezaki  |
| July 2  | Sustainability and health<br>C. Watanabe   |

## 【Human Ecology II (人類生態学特論II)】

November to December, 2009

- November 18 Heavy metals in our environment: exposure level, source, and health risk [lecture]  
J. Yoshinaga (Graduate School of Frontier Sciences)
- November 25 “Bioindicators of POPs -- Monitoring in Developing Countries” Edited by S. Tanabe & A. Subramanian (Kyoto University Press, 2006) [reading assignment]  
S. Himeno (Tokushima Bunri University)
- December 2 “The Changing Face of Disease: Implications for Society” Edited by Mascie-Taylor N et al. (CRC Press, 2004) [reading assignment]  
T. Inaoka (Saga University)
- December 9 Human-Chimpanzee interfaces in the West African landscape: Evolution, zoonoses, and conservation [lecture]  
G. Yamakoshi (Kyoto University)

October to November, 2010

- October 27 Human-Chimpanzee interfaces in the West African landscape: Evolution, zoonoses, and conservation [lecture]  
G. Yamakoshi (Kyoto University)
- November 10 “The Taiwan Crisis: A Showcase of Global Arsenic Problem. (Arsenic in the Environment, Vol. 3) J.-S. Jean et al., CRC Press, 2010 [reading assignment]  
S. Himeno (Tokushima Bunri University)
- November 17 Heavy metals in our environment: exposure level, source, and health risk [lecture]  
J. Yoshinaga (Graduate School of Frontier Sciences)
- November 24 “Case studies in global health: millions saved” by Ruth Levine, 2007 (Jones & Bartlett Learning) [reading assignment]  
T. Inaoka (Saga University)

□論文

■卒業論文      **Graduation Theses**

該当なし

■修士論文      **Master's Theses**

2009 年度

井上陽介      中国海南省少数民族居住地域における格差の発生と QOL との関係  
The Emergence of Inequality and its correlation with QOL in an Ethnic Minority Community in Hainan Island, People's Republic of China

加賀美英子      インドネシア西ジャワ州の健常学童における断食月中の体内水分状態変化と尿中ナトリウム, カリウム, バソプレシンについて  
The day-to-day change of hydration status and urinary sodium, potassium, and vasopressin during Ramadan among school children in West Java, Indonesia

小林紗弥香      セレン欠乏マウスにおけるエンテロウイルス 71 感染の病原性変化の検証  
Virulence of enterovirus 71 in selenium-deficient mouse

2010 年度

近江早苗      魚の消費によって高濃度のメチル水銀に曝露された日本人集団における血中セレン濃度とグルタチオンペルオキシターゼ活性  
Levels of selenium and glutathione peroxidase activity in the blood of a Japanese population exposed to high level of methylmercury through consumption of fish

Gwendalyn Vengiau      パプアニューギニア・首都ポートモレスビーに居住するナシオイ移住者の栄養転換  
Nutritional Transition among the Nasioi migrants in Port Moresby, Papua New Guinea

Saira Tasmin 鉛に曝露されたバングラデシュの小児におけるデルタアミノレブリン酸脱水素酵素 (ALAD) の遺伝的多型とその尿中アミノレブリン酸レベルへの影響  
Delta-Aminolevulinic Acid Dehydratase (ALAD) polymorphism in lead exposed children and its effect on urinary Aminolevulinic Acid (ALA)

■博士論文      **Doctoral Dissertations**

2009 年度

Linda Dewanti インドネシア、スラバヤにおける新生児さい帯血中の金属および微量元素濃度と単核球の免疫機能との関連  
The Cord Blood Levels of Heavy Metals and Trace Elements and their Relationship with Immune Functions of Mononuclear Cells in the Babies Born in Surabaya, Indonesia

2010 年度

Rajendra P Parajuli ネパール・チトワン郡の乳児における臍帯血中重金属・微量元素濃度と神経発達の関係: 出生から生後 6 か月までのフォローアップ調査  
The Cord Blood Levels of Heavy Metals and Trace Elements and their Relationship with Neurodevelopment of Infants of Chitwan, Nepal: A Follow-up from Birth to 6 Months of Age

## 研究業績 **Research Activities**

### □原著論文 **Original Articles**

Eriguti, T., Takahashi, M., Ji, H., Umezaki, M., Watanabe, C., Koga, M., and Arizono, K. (2010) Analysis of DDT and its metabolites in human cord blood in Nepal. *Organohalogen Compounds* 72: 822-825.

Fukuyama, S., Watanabe, C., Umezaki, M. and Ohtsuka, R. (2009) Twenty years' demographic change in sedentes and migrants of an international migrant-sending community in Tonga. *Journal of Biosocial Science* 41(1): 77-87.

Iwakura, T., Iwafuchi, M., Muraoka, D., Yokosuka, M., Shiga, T., Watanabe, C., and Ohtani-Kaneko, R. (2010) *In vitro* effects of bisphenol A on developing hypothalamic neurons. *Toxicology* 272: 52-58.

Kondo K., Lee, JS., Kawakubo, K., Kataoka, Y., Asami, Y., Mori, K., Umezaki, M., Yamauchi, T., Takagi, H., Sunagawa, H., and Akabayashi, A. (2009) Association between daily physical activity and neighborhood environments. *Environmental health and Preventive Medicine* 14: 196-206.

Konishi, S., Watanabe, C., Umezaki, M., and Ohtsuka, R. Energy and nutrient intake of Tongan adults estimated by 24-hour recall: The importance of local food. *Ecology of Food and Nutrition* (in press)

Okubo, S., Dendi Muhamad P., Harashina, K., Takeuchi, K., and Umezaki, M. Land use/cover classification of a complex agricultural landscape using single-dated very high spatial resolution satellite-sensed imagery. *Canadian Journal of Remote Sensing* (in press)

Ohtani-Kaneko, R., Iwafuchi, M., Iwakura, T., Muraoka, D., Yokosuka, M., Shiga, T., and Watanabe, C. (2009) Effects of estrogen on synapsin I distribution in developing hypothalamic neurons. *Neuroscience Research* 66: 180-188

Parajuli, RP., Umezaki, M., and Watanabe, C. (2009) Behavioral and nutritional factors and geohelminth infection among two ethnic groups in the Terai region, Nepal. *American Journal of Human Biology* 21: 98-104.

Suzuki, Y., Niwa, M., Yoshinaga, J., Watanabe, C., Mizumoto, Y., Serizawa, S., and Shiraishi, H. (2009) Exposure assessment of phthalate esters in Japanese pregnant women by using urinary metabolite analysis. *Environmental Health and Preventive Medicine* 14: 180-187.

Tadokoro, K. (2010) An analysis of the organization of groups for fish poisoning among the Tewada of Papua New Guinea. *People and Culture in Oceania* 26: 1-22.

Takahashi, M., Eriguti, T., Ji, H., Umezaki, M., Watanabe, C., Koga, M., and Arizono, K. (2010) 2,4-Dichloroaniline in human urine relevant to the lifestyle in four cities in Nepal. *Organohalogen Compounds* 72: 902-905.

Umezaki, M. and Jiang, HW. (2009) Changing adaptive strategies of two Li ethnic minority villages in a mountainous region of Hainan Island, China. *Southeast Asian Studies* 47: 348-362.

Uda, S. (2010) The Behavior of Fishers after Implementation of the Project to Exterminate Nonindigenous Fish in Lake Biwa, Japan. *Human Ecology* 38(2): 237-249.

Yoshida, M., Suzuki, M., Satoh, M., Yasutake, A., and Watanabe, C. (2011) Neurobehavioral effects of combined prenatal exposure to low-level mercury vapor and methylmercury. *Journal of Toxicological Sciences* 36: 73-80.

Yoshinaga, J., Takagi, M., Yamasaki, K., Tamiya, S., Watanabe, C., and Kaji, M. Blood lead levels of contemporary Japanese children. *Environmental Health and Preventive Medicine* (in press)

Yoshioka, W., Akagi, T., Nishimura, N., Shimizu, H., Watanabe, C., and Tohyama, C. (2009) Severe toxicity and cyclooxygenase (COX)-2 mRNA increase by lithium in the neonatal mouse kidney. *The Journal of Toxicological Sciences* 34(5): 519-525.

石原祥子, 石田貴文, 清水華 (2010) 集団内 JC ウイルスゲノム型の解析による伝播動態の検討. *DNA 多型*, 18:201-203.

梅崎昌裕, 西谷大 (2011) 雲南省者米谷における土地利用パタンの空間情報科

学分析. 国立歴史民俗博物館研究報告 164 : 159-174.

卯田宗平 (2010) 湖水面積の季節的な変動と鵜飼い漁の存立メカニズム-中国江西省ポーヤン湖における鵜飼い漁の事例から-. 日中社会学研究 18 : 118-136.

卯田宗平 (2010) 中国大陸の鵜飼い-漁撈技術の共通性と相違性-. 日本民俗学 261 : 64-93.

## □単行本      **Books and Book Chapters**

Umezaki, M. (2010) Adaptive Strategies of Huli Migrant Settlers. Goddard M. (ed.) Villagers in the City: Melanesian Experiences of Port Moresby, Papua New Guinea. Sean Kingston Press, pp. 75-92.

卯田宗平 (2009) 「伝統捕魚方式面臨的挑戦 (伝統的な漁業が迎える挑戦)」(中国語) 楊聖敏 (編) 『我做田野 故我存在』中央民族大学出版社, pp. 136-154.

卯田宗平 (2010) 「中国における環境史研究の可能性-生業技術からみるミクロな人間-環境系-」水島司 (編) 『環境と歴史学：歴史研究の新地平』勉誠出版, pp. 36-45.

梅崎昌裕 (2010) 「環境と人間の生活の通時的かかわり：中国海南島の事例より」水島司 (編) 『環境と歴史学：歴史研究の新地平』勉誠出版, pp. 26-35.

梅崎昌裕 (2010) 「自然」を食べる：ニューギニア焼畑農耕民の食生活」津金昌一郎 (編) 『「医食同源」一食とからだ・こころ』ドメス出版, pp. 24-45.

梅崎昌裕 (2010) 「人間の生態と適応，病と西欧化」片山一道・熊谷圭知 (編) 『オセアニア』朝倉書店, pp. 114-131.

梅崎昌裕 (2010) 「生活用水および大気と居住環境」内堀基光，本多俊和 (編) 『人類学研究：環境問題の文化人類学』日本放送出版協会, pp. 49-62.

梅崎昌裕 (2009) 「昨日の友は今日の敵：パプアニューギニア高地・フリの社会」河合香 (編) 『集団-人類社会の進化史的基盤』京都大学出版会, pp. 171-179.

梅崎昌裕 (2009) 第二章総論「環境と開発」遠藤央，印東道子，梅崎昌裕，中澤港，窪田幸子，風間計博 (編) 吉岡政徳 (監修) 『オセアニア学』京都大学学術出版会, pp. 107-115.

梅崎昌裕 (2009) 「生態人類学と GIS」 水嶋司・柴山守 (編) 『地域研究のための GIS』 古今書院, pp. 19-27.

遠藤央, 印東道子, 梅崎昌裕, 中澤港, 窪田幸子, 風間計博 (編) 吉岡政徳 (監修) 『オセアニア学』 (2009) 京都大学学術出版会.

小西祥子 (2009) 「海外移住の人口学」 遠藤央, 印東道子, 梅崎昌裕, 中澤港, 窪田幸子, 風間計博 (編) 吉岡政徳 (監修) 『オセアニア学』 京都大学学術出版会, pp. 277-289.

蔣宏偉, 梅崎昌裕 (2009) 「市場経済化する中国農村の土地利用変化」 水嶋司・柴山守 (編) 『地域研究のための GIS 入門』 古今書院, pp. 51-65.

関山牧子, 渡辺知保 (2011) 「アジア人の健康-豊かに生きる」 小宮山宏, 武内和彦, 住明正, 花木啓祐, 三村信男 (編) 『サステナビリティ学5. 持続可能なアジアの展望』 東京大学出版会, pp. 163-200.

田所聖志 (2009) 「セックスをめぐる男性の『不安』—パプアニューギニア・テワダ社会から」 奥野克巳, 椎野若菜, 竹之下祐二 (編) 『来たるべき人類学シリーズ—セックスの人類学』 春風社, pp. 106-140.

田所聖志 (2009) 「メラネシア研究と空間論的転換」 遠藤央, 印東道子, 梅崎昌裕, 中澤港, 窪田幸子, 風間計博 (編) 吉岡政徳 (監修) 『オセアニア学』 京都大学学術出版会, pp. 429-430.

田所聖志 (2010) 「ニューギニアの『もてない男』」 椎野若菜 (編) 『シングルを生きる—人類学者のフィールドから』 御茶の水書房, pp. 35-50.

本多俊和, 梅崎昌裕 (2010) 「病気と環境」 内堀基光, 本多俊和 (編) 『人類学研究: 環境問題の文化人類学』 日本放送出版協会, pp. 94-112.

渡辺知保 (2010) 「食品中の汚染金属とそのリスク」 東京大学食の安全研究センター (編) 『食の安全科学の展開—食のリスク予測と制御に向けて—』 シーエムシー出版, pp. 36-44.

□ 総説・資料・他      **Reviews, Reports, Essays etc.**

Onishi, M., Tida, S., Ono, R., Tadokoro, K., Negishi, Y., and Furusawa, T. (2009) Book Review: *Papuan Pasts: Cultural, Linguistic, and Biological Histories of Papuan-speaking People*. Andrew Pawley, Robert Attenborough, Jack Golson, and Robin Hide (eds.) *Pacific Linguistics*, Canberra, 2005, 817pp. *People and Culture in Oceania* 24: 81-87.

卯田 宗平 (2009) 「ウと生きる, ウが活きる」 総合地球環境学研究所中国環境問題研究拠点 編 『天地人』 総合地球環境学研究所, p. 16.

卯田 宗平 (2009) 「外来生物問題」 鳥越皓之・帯谷博明 編 『よくわかる環境社会学(やわらかアカデミズム・わかるシリーズ)』 ミネルヴァ書房, p. 61.

卯田 宗平 (2009) 「書評: 飯田卓著『海を生きる技術と知識の民族誌-マダガスカル漁撈社会の生態人類学』」 『文化人類学』 日本文化人類学会 73 巻 第 4 号, pp. 620-623.

卯田宗平 (2009) 「情報技術と環境問題研究-以 3S (GIS, GPS, RS) 技術と水環境問題為例 (情報技術と環境問題研究-3S (GIS, GPS, RS) 技術と水環境問題研究を事例として)」 (中国語) 『河海大学学报』 河海大学, 11 巻 2 期, pp. 25-29.

梅崎昌裕 (2011) 「微妙な差異を愉しむ: パプアニューギニア高地人にとってのサツマイモ」 『Tasc Monthly』 423:8-13.

梅崎昌裕, 李廷秀, 川久保清, 蔣宏偉 (2010) 「加速度計と GPS を組み合わせた活動郷土の時間空間パターン評価手法」 『デサントスポーツ科学』 31:42-48.

梅崎昌裕 (2009) 「パプアニューギニアの自然に生きる人々」 『人間と文化』 三愛新書, 75:163-189.

梅崎昌裕 (翻訳) (2009) 藤野善久, 松田晋哉 (監訳) (2008) 『健康影響評価: 概念・理論・方法および実施例』 社会保険研究所 (原著: Kemm et al. (2004) *Health Impact Assessment*) 18 章 (ウェールズにおける HIA の経験), 33 章 (農業および食料政策の HIA).

田所聖志 (2009) 「アラノーパプアニューギニア僻地村落の寡夫」 『Field+』 1: 4-5.

田所聖志 (2009) 「書評：『知識資源の陰と陽』(資源人類学第3巻) 東京, 弘文堂, 2007年」『文化人類学』74(1): 190-193.

渡辺知保 (2011) 「Anthropocene と planetary boundaries—地球環境のあらたなとらえ方と人間の生存・健康」『医学のあゆみ』236(12):1139-1142.

#### □学会発表      **Presentations in Scientific Meetings**

Eriguti, T., Takahashi, M., Ji, H., Umezaki, M., Watanabe, C., Koga, M., and Arizono, K., Analysis of DDT and its metabolites in human cord blood in Nepal. 30th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants, 12-17 September 2010, San Antonio, TX, USA.

Ji, H., Sun, C., Kawakami, S., Lin, Y., Wu, M., Lu, Y., Umezaki, M., Watanabe, C., and Arizono, K., Triclosan in urine: as the index of evaluation for human health assessment. SETAC Asia/Pacific 2010, 4-7 June 2010, Guangzhou, China.

Parajuli, RP., Umezaki, M., and Watanabe, C. Dietary intakes of two minority groups in Terai Region of Nepal. 35th Annual meeting of Human Biology Association. 14-17 April 2010, Albuquerque, NM, USA.

Sultana, N., Watanabe, C., Furusawa, H., Umezaki, M., and Inaoka, T. Oxidative stress markers namely-15-F<sub>2t</sub>-isoprostane and 8-OHdG concentration in the Bangladeshi women with arsenic exposure through drinking water. The 7th International Symposium on Southeast Asian Water Environment, D2-4, 28-30 October 2009, Bangkok, Thailand.

Sultana, N., Watanabe, C., Furusawa, H., Umezaki, M., and Inaoka, T. Oxidative stress biomarkers levels in the Bangladeshi women with arsenic exposure through drinking water. 41st The Asia-Pacific Academic Consortium for Public Health (APACPH) Conference. 3-6 December 2009, Taipei, Taiwan.

Takahashi, M., Eriguti, T., Ji, H., Umezaki, M., Watanabe, C., Koga, M., and Arizono, K. 2,4 Dichloroaniline in human urine relevant to the lifestyle in four cities in Nepal. 30th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants, 12-17 September 2010, San Antonio, TX, USA.

Tanaka, M., Ikemoto, Y., Shimizu, H., Jiang, HW., Lam, TD., Phan, T., and Watanabe, C. Subsistence transition and subjective well-being among the residents of four rural/urban

communities in Vietnam. The First Asia-Pacific Conference on Health Promotion and Education, 18-20 July 2009, Chiba, Japan.

Uda, S. How the "cormorant fishermen" have coped with the change of fishing area: A case study at Lake Poyang in Jiangxi Prov. China. 16th World Congress of IUAES, 30 July 2009, Kunming, China.

Umezaki, M. Transformation of subsistence in a mountainous village in Hainan Island of China. The 16th World Congress of the International Union of Anthropological and Ethnological Sciences, 27-31 July 2009, Kunming, China.

Watanabe, C., Always co-benefit? – Some considerations (metaphors?) on health & environment. Healthy Climate, Planet and People. Co-benefits for health from action on climate change. Australian Academy of Science Fenner Conference on the Environment, 23-24 June 2010, Canberra, Australia.

Watanabe, C. Can Global Observation data reveal local social adaptations towards sustainability? 2nd International Conference on Sustainability Sciences – Asia, 2-4 March 2011, Hanoi, Vietnam.

Watanabe, C., Exposure to chemicals in rural areas of Asian developing countries; especially through food and water. AGS annual meeting, 17 March 2010, Tokyo, Japan

Watanabe, C., (organizer) Health and Sustainability (session). International Conference on Sustainability Science – Asia. 24 November 2009, Bangkok, Thailand.

Watanabe, C., Inter-country comparisons of health in relation to the lifestyles and environment: Changes of subsistence and its impact on health and local environment in several Asian countries. International Conference on Human Ecology, 29 June- 3 July 2009, Manchester, UK.

Watanabe, C., Selenium as a confounder of methylmercury toxicity: experimental studies and field situations. 2010 Hawaii Seafood Symposium "Making Sense of Seafood Health Benefits and Risks. 20-22 October 2010, Honolulu, HI, USA.

Watanabe, C., Sustainable well-being and health. "Socioecological Adaptations to climate change" Ecological Society of America Annual Meeting, 1-6 August 2010, Pittsburgh, PA, USA.

Watanabe, C., Toxicological interaction between methylmercury and selenium, experimental and epidemiological studies. SETAC North America 31st Annual Meeting,

9 November 2010, Portland, OR, USA.

Watanabe, C., Arizono, K., Umezaki, M., Gunawan, B., Abdollarh, O., Pahari, K., Lam, TD., Introduction of and Exposure to Chemicals in Asian Developing Countries. The XVIIIth International Conference of the Society for “Human Ecology Human Responsibility & Environmental Change: Planning, Process, and Policy”, 22 April 2011, Las Vegas, USA.

Watanabe, C., Furusawa, H., Takane, E., Umezaki, M., Arizono, K., Konishi, S., Inaoka, T., Ikemoto, Y., Pahari, K., Lam, TD., Ahmed, A., Abudullar, O., Siba, P., Urinary selenium excretion in rural and urban communities of five Asian regions: variation and causes of variation. 9th International Symposium on Selenium in Biology and Medicine, 31 May - 4 June 2010, Kyoto, Japan

Watanabe, C., Umezaki, M., Arizono, K., Inaoka, T., Sekiyama, M., Shimizu, H., Konishi, S., Jiang, HW., Gunawan, B., Abdoellah, O., Subsistence transition and its effects on local natural and chemical environments in rural and urban communities of Asian-Pacific countries. Ecological Society of America, 2 August 2009, Albuquerque, NM, USA.

Yoshida, M., Watanabe, C., Satoh, M., Yasutake, A., Neurobehavioral changes in metallothionein-null mice prenatally exposed to low level methylmercury. 9th international Conference on Mercury as a Global Pollutant, 7 – 12 June 2009, Guizhou, China.

井上陽介, 梅崎昌裕. 中国海南省少数民族居住地域における格差と QOL : 観光開発の進む村落における事例. 第 80 回日本衛生学会総会, 2010 年 5 月 9-11 日, 仙台.

井上陽介. 海南黎族地区的经济开发对居民健康的影响 (海南省黎族居住地域における経済発展の健康影響) (中国語), 黎族文化中日学术研讨会 (黎族文化日中学術研究会), 2009 年 12 月 18 日, 五指山市, 中国.

井原泰雄, 能城沙織, 清水華, 赤松茂, 石田貴文. 顔の類似性と魅力. 第 3 回日本人間行動進化学会, P-13, 2010 年 12 月 4-5 日, 神戸.

梅崎昌裕. 小型 GPS と加速度計を組み合わせた身体活動の空間時間パターン評価. 日本循環器予防学会シンポジウム『循環器病と地理空間の関連 : GIS と空間疫学の応用』2010 年 5 月 28 日, 東京.

卯田宗平. 村落の変化に関わる共通性と相違性—中国・長江流域の村落を中心としながら. 日中社会学会, 2010年6月6日, 東京.

卯田宗平. 情報技術と環境問題研究—以 3S (GIS, GPS, RS) 技術と水環境問題為例 (情報技術と環境問題研究—3S (GIS, GPS, RS) 技術と水環境問題研究を事例として) (中国語). 第2回中国環境社会学会, 2009年4月26日, 南京, 中国.

卯田宗平. 漁民对环境变化的対応戦略 (環境変化に対する漁民の適応戦略) (中国語). 第一回中国西南文化与高級學術論壇, 2009年3月26日, 湖北省, 中国.

小林紗弥香, 清水博之, 渡辺知保. セレン欠乏マウスにおけるエンテロウイルス71の病原性変化の検討. 第74回日本民族衛生学会総会. 2009年11月12—13日, 京都.

小林紗弥香, 清水博之, 渡辺知保. The virulence of enterovirus 71 in selenium-deficient mouse. 第80回日本衛生学会総会. 2010年5月9—11日, 仙台.

田所聖志. パプアニューギニアにおける資源開発とエスニック・アイデンティティーの相互作用—ガルフ州における石油試掘の事例から. 第26回日本オセアニア学会研究大会. 2009年3月19—20日, 別府.

田所聖志. 移動のつくる地域社会空間—パプアニューギニア, テワードにおける親族関係・移住・儀礼的实践. 平成21年度日本文化人類学会関東地区例会. 2009年7月21日, 新座.

田所聖志. パプアニューギニア, テワード社会の食生活—シングル女性による世帯への貢献度から. 第14回生態人類学会研究大会. 2009年3月22—23日, 笛吹.

田所聖志. 人間と魚の連続性—パプアニューギニア・テワードにおけるウナギ漁の事例から. 第44回日本文化人類学会研究大会. 2010年6月12—13日, 新座.

古澤拓郎, 古澤華, Shankar Aswani, Ricky Eddie, Makiva Tuni, Freda Pitakaka, Josephine Watoto, Connie Panisi. 大規模災害と復興が漁撈農耕社会におよぼす影響: 2007年ソロモン諸島沖地震津波被災地の人類生態学的調査. 第50回日本熱帯医学会大会, P11-10, 2009年10月22—23日, 沖縄.

古澤華, タン・ファン, チャンディン・ラム, リーゴク・フォン, 池本幸生, 田中美加, 蔣宏偉, 渡辺知保. ベトナムにおける農業労働と尿中痕跡元素の関係. 第80回日本衛生学会総会, 0-181, 2010年5月9-11日, 仙台.

能城沙織, 井原泰雄, 清水華, 赤松茂, 石田貴文. スンバ人における顔の類似性に依存した配偶者選択. 第29回日本動物行動学会, 2010年11月19-21日, 沖縄.

渡辺知保. アジア・オセアニアの正業転換と環境・健康影響. 第5回中国環境問題研究拠点国際シンポジウム“西南中国の開発と環境・生業・健康”. 2010年11月2日, 昆明, 中国.

渡辺知保. 感染症や環境依存型疾病と地球観測・予測の統合知. 第4回データ統合・解析システム(DIAS)フォーラム—地球観測と予測の統合知が拓く新たな社会づくり. 2010年7月14日, 東京.

渡辺知保. 重金属を中心とする環境中化学物質の健康影響. 富山県衛生研究所合同セミナー. 2010年12月1-2日, 富山.

渡辺知保. 食品中の汚染金属とそのリスク. 第15回科学技術交流フォーラム「食の安全」. 2009年4月23日, 東京.

渡辺知保. 毒性と感受性-リスク評価の観点から. 東大水フォーラムセミナー. 2009年5月18日, 東京.

渡辺知保. メチル水銀とセレンの相互作用. 北陸大学術フロンティア・サテライトミーティング. 2010年2月19日, 水俣市.

渡辺知保. メチル水銀とセレンの相互作用—旧くて新しい問題. 国立水俣病総合研究所セミナー. 2009年11月9日, 水俣市.

渡辺知保, 梅崎昌裕, 有菌幸司, 池本幸生, 稲岡司, 関山牧子, 古澤華, 小西祥子, 蔣宏偉. アジア・オセアニアにおけるライフスタイル(生業)の転換とその健康影響: ENVRERA 研究. 第80回日本衛生学会総会. 2010年5月9-11日, 仙台.

## □受賞 Awards

第5回日本文化人類学会奨励賞（日本文化人類学会，2010年6月）

卯田宗平（対象論文：「生業環境への二重の対応-中国・ポーヤン湖における鵜飼漁師たちの事例から」『文化人類学』73(1)，pp1-25，2008年）

第80回日本衛生学会学術総会会長賞（第80回日本衛生学会総会，2010年5月）

小林紗弥香，清水博之，渡辺知保：The virulence of enterovirus 71 in selenium-deficient mouse.

Asian Young professional on Water research (The 7th International Symposium on Southeast Asian Water Environment, 28-30 October, 2009)

Nayar Sultana

Young Investigator Travel Award (The 41st Asia-Pacific Academic Consortium for Public Health (APACPH) Conference, 3-6 December 2009)

Nayar Sultana

## **競争的資金の獲得 Research Funds**

### **□政府系競争資金 National Research Funds**

#### **■文部科学省科学研究費補助金（代表および分担）**

基盤研究（A）（海外）「インドネシア西ジャワ農村部における地域の持続可能性と健康」（代表：渡辺知保）2008－2012年度

基盤研究（A）（一般）「居住地域環境が日常身体活動・行動に及ぼす影響に関する調査研究」（分担：梅崎昌裕，代表：李延秀＜東京大学＞）2008－2011年度

基盤研究（A）（一般）「東南アジア農山漁村の生業転換と持続型生業基盤の再構築」（分担：梅崎昌裕，代表：河野泰之＜京都大学＞）2010－2013年度

基盤研究（B）（海外）「近代化にともなう人為由来の化学物質の生態系への導入とその健康影響の解明」（代表：梅崎昌裕，分担：渡辺知保）2009－2011年度

基盤研究（B）（一般）「東南アジア大陸部における土地利用変化のメカニズム－フィールドワークとRSの結合」（分担：梅崎昌裕，代表：河野泰之＜京都大学＞）2006－2009年度

基盤研究（B）（一般）「最新の空間情報科学技術を用いた土地利用分析法の確立」（代表：梅崎昌裕）2008－2011年度

基盤研究（B）（海外）「バングラデシュにおける地下水砒素汚染と児童生徒の知的機能・社会生活能力」（渡辺知保：分担，代表：稲岡司＜佐賀大学＞）2010－2011年度

基盤研究（B）（海外）「中国癌村発生要因としての遺伝毒性物質」（渡辺知保；分担：代表；有菌幸司＜熊本県立大＞）2010－2011年度

基盤研究（C）（一般）「子どもの肥満とライフスタイル」（分担：渡辺知保，代表：山内太郎＜北海道大学＞）2008－2010年度

挑戦的萌芽研究「全地球測位システムと加速度計を利用した位置情報と身体活動量の統合解析」（代表：梅崎昌裕）2009－2010年度

挑戦的萌芽研究「生物多様性概念の社会化の研究：現代生物学者の科学人類学」（分担：田所聖志，代表：池田光穂＜大阪大学＞）2010－2011年度

若手研究 (B) 「パプアニューギニアにおける資源開発とエスニック・アイデンティティの相互作用」 (代表: 田所聖志) 2009-2012 年度

若手研究 (B) 「妊娠中の感染と低栄養が引き起こす胎児のエピジェネティック変化に関する研究」 (代表: 清水華) 2010-2011 年度.

若手研究 (B) 「日本人女性の軽度の低栄養状態が妊孕力に及ぼす影響」 (代表: 小西祥子) 2009-2010 年度

日本学術振興会特別研究員奨励費 「中国長江流域における淡水資源の利用と管理、分配に関する比較環境史研究」 (代表: 卯田宗平) 2008-2010 年度

#### ■ その他の省庁の科学研究費補助金

京都大学東南アジア研究所共同研究助成 「東南アジアにおける土地利用の比較研究」 (代表: 梅崎昌裕) 2009-2010 年度

最先端・次世代研究開発支援プログラム (内閣府) 「パプアニューギニア高地人がサツマイモを食べて筋肉質になるのはなぜか」 (代表: 梅崎昌裕) 2010-2013 年度

食品安全委員会食品健康影響評価技術研究課題 「日本人小児の鉛曝露とその健康リスクに関する研究」 (分担: 渡辺知保, 代表: 吉永淳<東京大学>) 2008-2010 年度

東京大学 AGS 研究会研究助成 「中国農村地域における mobility と健康, 村落の持続性」 (代表: 梅崎昌裕, 分担: 渡辺知保) 2010 年度

東京大学 AGS 研究会研究助成 「アジア農村地域における持続可能な農村開発と健康転換を実現するための基礎的研究」 (代表: 梅崎昌裕, 分担: 渡辺知保) 2009 年度

(独) 科学技術振興機構 地球規模課題対応国際科学技術協力事業 「熱帯地域に適した水再利用技術の研究開発」 (分担: 渡辺知保, 代表: 山本和夫<東京大学>) 2008-2012 年度

文部科学省 気候変動適応研究推進プログラム「大気環境物質のためのシーMLS同化システム構築とその応用」(分担：渡辺知保, 代表：中島映至<東京大学>) 2010-2014 年度

□民間財団などの研究助成金 **Private Research Funds**

石本記念デサントスポーツ科学振興財団学術研究助成「加速度計と GPS を組み合わせた活動強度の時間空間パターン評価手法」(代表者：梅崎昌裕) 2009 年度

## 人類生態学研究会 Meetings on Human Ecology

第 23 回 (2009 年 6 月 27 日) 於 教育研究棟 2 階第 4 セミナー室

Nayar Sultana (人類生態学教室)

バングラデシュのヒ素汚染地域に居住するピル使用者と非使用者における無機ヒ素による酸化ストレスの評価

渡辺 知保 (人類生態学教室)

環境省プロジェクト“生業転換と化学環境の転換”(ENVRERA)の終了にあたって

山内 太郎 (北海道大学)

アフリカ熱帯雨林に居住するピグミー系狩猟採集民の生態と進化—栄養適応の視座から

鈴木 庄亮 (NPO 法人 国際エコヘルス研究会)

心身の健康と生活—「健康チェック票 THI」の事例から

第 24 回 (2010 年 7 月 3 日) 於 教育研究棟 13 階第 5 セミナー室

小林 紗弥香 (人類生態学教室)

セレン欠乏マウスにおけるエンテロウイルス 71 感染の病原性変化の検証

田所 聖志 (人類生態学教室)

パプアニューギニア, テローダ社会における魚毒漁の漁撈集団の分析

吉永 淳 (東京大学)

日本人の一日無機ヒ素曝露と発がんリスク

中澤 港 (群馬大学)

ソロモン諸島の首都近郊農村の人々の生活と健康状態は民族紛争とそこからの復興過程でどう変わりつつあるか?

## 教室員一覧 Department Members

### 名誉教授

鈴木継美 (2008年5月ご逝去)  
大塚柳太郎

### 教授

渡辺知保

### 准教授

梅崎昌裕

### 非常勤講師

坂井建雄	順天堂大学医学部
佐々木誠一	茨城県立医療大学
中澤 港	群馬大学大学院医学系研究科
吉田 稔	八戸大学人間健康学部
新田裕史	国立環境研究所
本郷哲郎	山梨県環境科学研究所
末吉秀二	吉備国際大学社会学部
門司和彦	総合地球環境学研究所
姫野誠一郎	徳島文理大学薬学部
稲岡 司	佐賀大学農学部
山越 言	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科

### 助教

古澤 華  
小西祥子

### 特任助教

蔣 宏偉 -2009.3

### 特任助教 (グローバル30)

田所聖志 2010.4-

### 特別研究員 (PD)

卯田宗平 -2010.12

### 特任研究員

田所聖志 -2010.3  
Rajendra Prasad Parajuli 2010.8-2011.3

森田彩子 2011.5-

### 事務補佐員

藤森美佳 (組織的な若手研究者等海外派遣プログラム)

高橋絵実 2009.11-

大和田昌代 2010.4-

### 大学院生

Rajendra Prasad Parajuli	-2010.3	博士課程
新城梨奈子	2008.4-	博士課程
Cindy Chia-Jung Chen	2009.4-2011.3	博士課程
Nayar Sultana	2009.4-	博士課程
井上陽介	-2010.3	修士課程
	2010.4-	博士課程
加賀美英子	-2010.3	修士課程
小林紗弥香	-2010.3	修士課程
	2010.4-	博士課程
Gwendalyn Vengiau	-2011.3	修士課程
Saira Tasmin	-2011.3	修士課程
	2011.4-	博士課程
近江早苗	-2011.3	修士課程
Alan Requelme	2010.4-	修士課程
Nicole Pei-Hsuan Cho	2010.4-	修士課程
山下彩香	2010.4-	修士課程
Dan-dan Li	2010.4-	修士課程
Ping Han Ser	2011.4-	修士課程
小坂理子	2011.4-	修士課程
平田千幸	2011.4-	修士課程
矢澤亜季	2011.4-	修士課程

### 客員研究員

吉澤剛士

Rajendra Prasad Parajuli 2011.5-

### 研究生

Ping Han Ser 2010.10-2011.3